

**OBUNSHA'S
NEW
SUNRISE
ENGLISH-
JAPANESE
DICTIONARY
REVISED EDITION**

旺 文 社
ニューサンライズ英和辞典〔改訂新版〕

初 版 発 行 1992年 1 月15日
改訂新版発行 1996年10月 1 日
重 版 発 行 2001年

編 者	稲 見 芳 勝 北 山 克 彦 斎 藤 次 郎 樽 田 眞 堀 内 克 明
発 行 者	赤 尾 文 夫
発 行 所	株 式 会 社 旺 文 社
	東 京 都 新 宿 区 矢 来 町 78 〒162-8680
印 刷 所	共 同 印 刷 株 式 会 社
付 物 印 刷 所	三 興 印 刷 株 式 会 社
製 本 所	株 式 会 社 市 川 製 本 所
製 函 所	清 水 印 刷 紙 工 株 式 会 社

●乱丁・落丁については送料小社負担にてお
取り替えいたします。

●お客様相談窓口 Tel. 03 (3266) 6400

●ホームページ <http://www.obunsha.co.jp/>

© Jiro Saito et al. 1996

(許可なしに転載、複製することを禁じます)

ISBN4-01-075123-1

Printed in Japan

◇旺文社「図書案内」をご希望の方にお送りいたします。
下記フリーダイヤルにご連絡ください。
◇旺文社には本書以外にも多数の出版物がございます。
お近くの書店で品切れの場合は、下記までご相談ください。
お客様専用フリーダイヤル 0120-02-4819
(受付時間は土・日・祝日を除く9:30~17:30)

は し が き

新しい指導要領に則り、高等学校の英語のカリキュラムにオーラル・コミュニケーションが導入されてから3年目を迎えている。この間、先生方の様々な実践と工夫によって、「話すこと」「聞くこと」に対する関心が高まり、成果を目指してさらなる努力と実践がなされつつある。学習した英語を媒介として、積極的に異文化に触れようとする基本的な姿勢が、多くの高校生に芽生えるとなれば、それこそはわが国の英語教育にとって一つの大きな飛躍を意味するのではないだろうか。

一方、近年の科学技術のめざましい発達、分けてもインターネットやマルチメディアの世界的な普及は、いまや私たちの生活を大きく変えようとしている。外国語の学習を例にとっても、インターネットの活用によって、同時代の生きた外国語の文章に容易に近づくことができるのは、学習にどれほど大きな刺激をもたらすことだろう。

本書はこのような新しい時代・状況の中で英語を学習する現代の高校生にとって、特に必要と思われる知識・情報に目くばりをしつつ編集され、具体的には以下のような特色を盛り込んでいる。

1. 新語・時事語を中心に見出し語を増強し、約46,000語を収録。

急速な科学技術の発達や、国際交流の進展の中で時々刻々に生起する新語を積極的に採録した。特にマルチメディア関連の用語や、国際関係の変化を反映する政治・経済関係用語、環境用語などを中心に、新しい単語や新しい語義を追加した。その結果、収録語数は旧版より約3,000語増えて約46,000語となった。

2. 国内外の最新の文法・語法研究の成果を踏まえ、記述を補強。

語義の配列順序、訳語、文型表示、語法解説、用例など、辞書の基幹部分について全般的な見直しを行い、国内外における近年の文法・語法研究の飛躍的な成果を踏まえて、必要と思われる記述の追加・補正を行った。特に名詞の加算・不可算、形容詞・副詞の比較変化の有無、米英のつづりの異同等、従来と全く軽視されがちだった情報も一層緻密な記述に改めた。

3. 対話形式の用例を「会話」の表示を付けて多数収録。

用例については、高校生の「オーラル・コミュニケーション」への関心の高まり、教室における授業展開の変化なども踏まえ、日常生活で多用される口語表現を対話形式の用例文として、「会話」の表示をつけて多数採録した。

4. 動作動詞などの語義の理解に役立つイラストを増強。

言葉による解説だけでは分かりにくい語義の異同等を明示するために、語義を表すイラストを増強した。従来は名詞項目のみに付されていたイラストを、必要に応じて動詞などの見出しにも付加し、語義がより具体的に把握できるよう工夫した。

5. 定評のある特色は旧版のスタイルを踏襲し、内容を一層充実。

類書の中でも特に分かりやすいとの評価を得ている独自の文型表示は、旧版の形式を踏襲した。また、いわゆる「機能語」項目における用例の全文改行や、多

義語の主要語義を見出し項目の冒頭に一括提示する「語義の要約」、類語のニュアンス・用法の差異等を図解した「類語パネル」など、学習に役立つと思われる構成上の工夫は、基本的に旧版のスタイルを踏襲し、内容面に再検討を加えて収録した。

6. しばしば誤って使われる単語を、正用法とともに別冊付録に収録。

高校生の和文英訳などで誤って用いられやすい180の単語について、正しい訳例とともに典型的な誤用例など、合わせて約450の例文を一括し『コンパクトセミナー 和文英訳表現集』として別冊付録に掲載した。

以上のごとく、本書の編集にあたっては旧版の特色を形式面で踏襲しながら、内容面では国内外の語法・文法研究の目覚ましい成果を可能な限りきめ細かく記述に反映させることをこころがけた。また、学習英和辞書が実際に使用される場を想定し、教室で一斉に辞書を引いて先生が指導を行う際にも、生徒が家庭で予習などに使用する場合にも、それぞれの目的に合うよう「引きやすく、使いやすい辞書」とすることをめざした。高校生の英作文にしばしば見られる代表的な誤用例をまとめて別冊付録としたのも、そうした考慮の一端である。

なお、本書の編集において、原稿執筆、校閲などの面で下記の先生方から多大なご尽力をいただいた。また、全国の多数の高校の先生方には、教室でのご使用経験に基づいてアンケートにご協力いただくとともに、多くの示唆に富んだご意見を頂戴した。これらの先生方にこの紙面を借りて心からお礼を申し上げたい。

本書が全国の高校で広く愛用され、英語を学ぶ多くの高校生の必携の辞書としてお役に立つことを念じてやまない。

1996年9月

編集委員

編集委員

稲見芳勝 北山克彦 斎藤次郎 樽田 眞 堀内克明

編集執筆協力者

井伊順彦	内田 勉	川北直子	金子典子	小崎 充
志賀伸一	鈴木 伸	瀬谷廣一	高瀬 博	竹俣忠昭
巽 豊彦	飛渡 洋	本間 大	宮澤 潔	村長祥子
森田信子	安恒聡子	渡辺一美	渡辺啓介	

〈編集協力〉(株)出版エリア

ミノス翻訳センター

〈装 丁〉アートディレクター 細谷 巖 / デザイナー 服部一成

〈カ ッ ト〉(株)DCTサービス 菊池 寛 小泉澄夫 ヨツモトグループ

〈見返し地図〉木川六秀

本書の使い方

[1] 見出し語

収 録 語 1 本辞典には一般の英語の語句のほか、固有名詞、外来語、接頭・接尾辞、連結形、短縮形、略語、複合語なども広く見出し語として採択し、合計約46,000語を収録した。

配 列 2 配列はすべてアルファベット順とした。同じつづりで大文字・小文字の違いがあるときは、小文字を先にした。

また同じつづりの複合語・合成語が続く場合の配列は、1語の見出し語—ハイフン付きの語—2語以上からなる見出し語の順とした。

3 同一のつづりでも語源の異なる語は原則として別見出しとし、右肩に数字を付けて区別した。

ball¹ ball²

4 派生語については、見出し語と同じつづりの部分を～で省略して見出し語の最後に示したこともある。

law·ful /lɔ:fəl/ 図 … **～·ly** 圖 **～·ness** 圖

つ づ り 5 見出し語には、音節の区切りに中丸[・]を入れて分節を示した。英文を書くときに単語を切る場合はここで切ることを示す。

6 二通り以上のつづりがあるときは、よく使われるほうを優先し、もう一方はそこを参照させた。

fiord, fjord /fjɔ:rd/ 図

fjord /fjɔ:rd/ 図 = fiord

ただし、配列上すぐ前後になるときは、一方を音節単位で省略して併記した。

cat·a·log, -logue /kætəlɔ:g, -ləg||-ləg/ 図

7 米英でつづりが異なる場合は米式を先に掲げ、次に《英》として英式つづりを併記した。

gray, 《英》 grey /grei/ 図…

8 米英のいずれかで異なるつづりが併用される場合は、米英で共通して用いられるつづりを先に掲げ、次に《+米》または《+英》として、共通部分を省略して併記した。

pas·teur·ize, 《+英》 -ise

これは米英共通してpasteurizeというつづりが用いられるが、英国ではpasteuriseというつづりも用いられることを示す。

※ ※ ※ 9 見出し語には重要度に応じて次の3段階の星印を付けた。

⋮ (中学・高校重要語) 約1300語

* (高校重要語) 約2000語

* (高校次位重要語) 約3000語

さらに⋮の語は赤字の大活字見出しとして検索の便をはかった。

[2] 発 音

- 記 号 1 発音は最新の資料に基づき、原則として見出し語の直後に / / に入れて、国際音声記号(International Phonetic Alphabet)を用いて示した。発音記号の一覧は1798ページを参照。
- アクセント 2 第1アクセントは / ˈ /, 第2アクセントは / ˌ / で示した。単音節の語は通例3重母音の場合にのみアクセント符号を付けた。
rev·o·lu·tion /rəvəluːʃən/ ㊦
church /tʃəːrtʃ/ ㊦
fire /faɪər/ ㊦
- 発音の併記 3 二つ以上の発音のしかたがある場合には、各音節単位を / - / で省略して次のように示した。
di·rec·tion /dirékʃən, dai-/ ㊦
 また、アクセントの位置だけが異なる場合にも共通部分を音節単位で / - / で示し、その上にアクセント符号を付けた。
Par·me·san /pá:rməzæn, ˌ - ˌ / ㊦
 これは /pá:rməzæn/ と /pà:rməzæn/ という二つの発音があることを示す。
- 米音と英音 4 米英で発音が異なる場合は /米音||英音/ のように示した。
sched·ule /skédʒu(:)||ʃédju:l/ ㊦
 米英のいずれかで異なる発音が併用される場合は、米英で共通の発音の後に /... , +米.../ のように示した。
pres·tige /prestí:ʒ, +米préstidʒ/ ㊦
- 弱形と強形 5 冠詞や代名詞など、強く発音されるときと弱く発音されるときで発音が異なる場合は、次のように示した。
the /弱形(子音の前) ðə, (母音の前) ði; 強形 ði:/
- 合 成 語 6 2語以上からなる見出し語は、それぞれの語が見出しとして立項されていれば、アクセント記号だけを見出し語に付けた。また、見出しとして立項されていない語には発音と分節を示した。
dá·ta bā·nk ㊦
Eif·fel Tó·wer /áifəl-/ ㊦
- 品詞・語義による違い 7 品詞・語義によって発音・アクセント・分節が異なる場合は次のように示した。
proj·ect ㊦ /prádʒekt||pródʒ-||⇒㊦/ (アクセント注意)
 —㊦ /prədʒékt/ (分節はpro·ject)
house·wife ㊦ ①/háuswàif ⇒ ㊦②/主婦 ㊦②/házif/ (発音注意) 針箱
- 斜体の記号と(ː)の記号 8 斜体(イタリック体)で示されている音は省略されることがあることを示す。
e·lec·tion /ilékʃən/ ㊦
 長母音が短母音化することがある場合は、長音記号[ː]を()に包んで示した。
se·ries /síari(:)z/ ㊦

- 発音注意** 9 発音上注意を要する語には、そのつど(発音注意)(アクセント注意)などの注を加えた。
breath /breθ/ (発音注意) (♦ breathe 動) の発音は /bri:ð/ 図
- 省略形** 10 語形変化の～s の発音は /～z/ のように見出し語に相当する部分を /～/ で示した。また cats のように見出し語相当部分にさかのぼって発音を示す場合は -ts /-ts/ のように示した。(⇒[4] 語形変化 2)

[3] 品 詞

- 記号** 1 品詞名は次のように略字を用いて示した。
- | | | |
|--------|--------|-------|
| 名=名詞 | 代=代名詞 | 動=動詞 |
| 自=自動詞 | 他=他動詞 | 助=助動詞 |
| 形=形容詞 | 副=副詞 | 前=前置詞 |
| 接=接続詞 | 間=間投詞 | 冠=冠詞 |
| 接頭=接頭辞 | 接尾=接尾辞 | 略=略語 |
- 一の記号** 2 一つの見出し語に二つ以上の品詞があるときは — を置いて別の品詞を示した。多品詞語では見出しの直後に品詞名を列記した。
junior /dʒú:njə/ 形… 一 図…
a.bove /əbá/ 前 副 形 図
- 一の記号** 3 動詞の自動詞・他動詞の別は — によって示した。
turn /tə:r/ … 動 他… 一 自
- 《 》の記号** 4 品詞に準じる機能を示すために《 》の記号を用いた。
why /hwai/ 副 ①《疑問副詞》… ②《関係副詞》
frank·ly /fræŋkli/ 副 ①… ②《文修飾副詞》
pa·per /péipə/ 名 ①… ②《形容詞的に》
hy·dro- /háidra, -drou/ 《連結形》
- 本辞典では、複合語を作る要素で単独では用いられないもののうち、それ自体が意味をもつものを連結形として、接頭辞と区別している。

[4] 語 形 変 化

- 記号** 1 語形変化に用いた略字は次のとおり。
- | | |
|----------|----------------|
| 複=複数形 | 3 単現=3 人称単数現在形 |
| 過去=過去形 | 過分=過去分詞形 |
| 現分=現在分詞形 | 比=比較級 最=最上級 |
- 2 名詞・代名詞・動詞・形容詞・副詞の語形変化については、不規則のものは、省略記号を用いてすべて示した。規則変化をする語でも基本語についてはすべて示した。見出し語と同じつづりの部分は～、一部の省略には - を用いた。
- give** /giv/ 動 (3 単現 ～s /～z/ ; 過去 **gave** /geiv/ ; 過分 **giv·en** /gívən/ ; 現分 **giv·ing**)
beau·ti·ful /bjú:təfəl/ 形 (more～ ; most～)

- 3 形容詞・副詞については基本語を中心に語形変化しないものについては適宜〔比較変化なし〕などの表示をした。

class-ic /klæsik/ 形 (♦ ❶以外比較変化なし)

- 4 規則変化をする語でも間違いやすい語は適宜変化形を示した。

broth-er-in-law /brʌðərinlɔː/ 図 ㊦ (複 **broth-ers-** /brʌðərz-/ , ~s /~z/)

cru-ci-fy /krú:səfài/ 動 (-fies /~z/ ; -fied /~d/ ; ~-ing)

din /din/ 動 (dinned /~d/ ; din-ning)

rud-dy /rʌdi/ 形 (-di-er ; -di-est)

[5] 語 義

- 語義の区分 1 語義の区分は❶❷…で分け、同一語義の中で訳語を併記する場合はコンマ[,]で区切り、語義区分に準ずる場合はセミコロン[;]で区切った。また動詞文型などで下位区分する場合はa, b, c…で区分した。

機能語などの多義語で上位区分する場合はA, B, C, I, II, IIIなどで区分した。また下位区分する場合はi, ii, iiiで区分した。

- 語義の配列 2 語義の配列は原則として使用頻度が高い語義から順に配列した。ただし語義区分が多岐にわたる場合などでは、必要に応じ関連する語義を近接して配列した場合もある。

- 語義の要約 3 語義が多岐にわたる多義語には、「語義の要約」を囲みで掲げた。また、重要な機能語には例文付きの「ガイド」を付けて、主な用法と代表的文例がすぐわかるようにした(⇒(12)ページ)

char-acter /kærəktər/ 図 (～s /~z/)

性格	特徴	登場人物	文字
----	----	------	----

- 太 字 4 重要語義は太字で示した。

- 語形の指示 5 見出し語及び語義の語形に関する特別な指示は()に包んで次のように示した。

(～s) (～es) (-ies) など	複数形で用いる
(the ～)	定冠詞を付けて見出し語の形で用いる

(a ～) (an ～)	不定冠詞を付けて見出し語の形で用いる
--------------	--------------------

(b-) など	小文字で用いる
---------	---------

(B-) など	大文字で用いる
---------	---------

(one's ～)	my, her など代名詞の所有格と共に見出し語の形で用いる
-----------	--------------------------------

(the ～s)	定冠詞を付けて複数形で用いる
----------	----------------

- 用法の指示 6 文法・語法上の指示、地域・文化などによって異なる使用域、文体上の違いなどを示すために〔 〕の記号を用いた。

文法的指示の主なものは以下のとおり。

〔複数扱い〕…名詞が常に複数動詞と共に用いられる

《単数扱い》…名詞が常に単数動詞と共に用いられる
 《単数複数両様扱い》…名詞が単数動詞・複数動詞の両方と用いられる

《集合的に》…名詞が集合的に用いられる

《限定的に》…形容詞が名詞・代名詞を直接修飾する

《叙述的に》…形容詞が動詞の補語として用いられる

この他、必要に応じて《受身形で》《副詞(句)を伴って》《可算名詞単数形と共に》などの指示を行っている。

※上記の指示には「通例」「しばしば」「ときに」などの頻度指示を付加したことがある。

用法指示の主なものとは以下のとおり。

《米》…米国用法

《英》…英国用法

《格式的》…主に文書中や改まった場面での会話・演説などで用いられる

《文語》…主に改まった書き言葉で用いられる

《口語》…主に親しい間での日常的な会話などで用いられる

《俗語》…非常にくだけた会話などで用いられる

《卑語》…卑わい・下品な用法で通常は使用を避ける

《タブー》…人種差別等にかかわる非常に強い軽べつ的・挑発的響きをもつ表現で、通常は決して用いてはならないとされる

《戲言的》…滑稽(こ)な効果をねらった用法

《気取って》…おおげさで不自然と感じられる用法

《古風》…今日でも通用するが古臭いと感じられる用法

《古語》…昔は用いられたが今日ではほとんど通用しない用法

《詩語》…主に詩・韻文で用いられる

この他、必要に応じて《えん曲的》《比喩的》《まれ》などの用法指示を行っている。これらは《英口語》《米・格式的》のように複数を組み合わせて示したものもある。

専門分野の指示

7 専門分野で用いられる語は『 』内に示した。

on-line /ʔnla:n, 5n-5n-/ 形 副 『コンピューター』オンラインの[で]

() [] の記号

8 語義の補足的説明は()で示し、語義に対して主語・目的語などの関係にある語句を補足する場合には[]に包んだ。

bob¹ /bʌb5bʌb/ 動 … ① (水面に浮いている物が動くように)上下に動く[揺れる], ひょいと動く

blow¹ /blou/ 動 … ① [風が] 吹く

book /buk/ … 動 … ① [座席・部屋など] を予約する; [芝居・列車などの切符] を買う

mel-low /mélou/ 形 … ① [果物などが] 熟して、柔らかく甘い; [酒が] 熟成して芳じゅんな、まろやかな

◎ と ○

9 数えられる名詞(countable)を◎, 数えられない名詞(uncountable)を○として示した。

また複数の語義があり、すべての語義の◎◎表示が共通である場合は品詞表示図の後に一括して示した。

㊦…数えられる名詞で、不定冠詞の a または an を付けることができ、複数形にもなる

㊧…数えられない名詞で、不定冠詞の a または an が付かず、複数形にもならない

語義によっては㊦㊧の両方がある場合は㊦㊧のように併記した。これらはいずれも絶対的な区分の表示ではなく、あくまで概略を示したものである。

名詞の可算・不可算の性質を表すために、このほか場合によって次のような表記を用いた。

㊦(単数扱い)…形の上では～s のように複数形見出しであるが不可算名詞扱いのもの

㊦または(a ～)…本来㊦と考えられるが不定冠詞を伴うこともあるもの

㊧(通例～s)…通例は複数形で用いるもの

不定冠詞は付くが複数形では用いられないものについては、必要に応じて《単数形で》、(a ～)などの表示をした。

実際の用法はこれだけでは十分に示せないで、㊧(通例～s)、㊦㊧(無冠詞単数またはthe ～)など、種々の表記を用いている。

参 考 語 10 見出し語及び語義に対し、参考となる語などは次のように示した。

()…同意語を示す

ap·par·ent /əpærənt, əpɛər-/ 形 … ㊦ (…にとって)明白な(obvious)

↔ …反意語・対応語を示す

back·hand /bæk'hænd/ 名 ㊧(テニス・卓球の)バックハンド(↔forehand)

⇒ ㊦参照すべき語、または関連のある語、図表、イラストなどを示す

pave·ment /péivmənt/ 名 … ㊦㊧(米)舗装道路(⇒roadway, road パネル)

㊦見出し語が後置される形の合成語が別に見出しとして収録されている場合、重要なものを参照させた

his·to·ry /hístəri/ 名… ㊦ ㊦ …

⇒case history, life history, natural history

枠 囲 み 11 重要な語法・類語・参考事項などは枠で囲んで詳説した。

語法 欄…語法・機能・文法などを解説した。

類語 欄…意味の異同等をまとめて解説した。また、類義語の差異を図解化し、「類語パネル」として掲載したものもある。

なお、一部のパネル中に用いられた○印は、当該の語と他の語との「結び付き可能」を意味する(⇒(12)ページ, beautiful パネル)

参考 欄…その語に関連して覚えるべき事がらを解説した。

比較 欄…カタカナ語・和製語と英語表現との関係について解説した。

- ◆ 印 …「語法」「類語」「参考」などに該当する事項のうち、比較的短いものをきめ細かく解説した
con·ceive /kənsi:v/ (動) (～s /～z/; ～d /～d/; -ceiv·ing) (◆ 通例進行形にしない)

[6] 用 例

- 1 用例は各品詞・語義ごとに Ⅱ のあとに掲げた。
- 2 見出し語相当部分および重要な関連語句は斜体で示し、他と区別した。また、ことわざは全体を斜体とした。

chief /tʃi:f/ 図 ㉔ (～s /～s/) ① (団体・局・部・課などの) 長, 署長, 所長; 長官 (of) Ⅱ the *chief of police* 警察署長

cas·tle /kæsl̩||kɑ:sl̩/ (発音注意) 図 ㉔ (～s /～z/) ① 城, とりで Ⅱ *An Englishman's home is his castle.* (ことわざ) 英国人にとって家は城である (だれも侵せない)

- 3 言い換えが可能な場合は次のように示した。

① 同じ語義・用法でほぼ同じ意味の複数の例文を示すときは二つの文を＝で結んだ。

pat¹ /pæt/ (動) (～s /-ts/; **pat·ted** /～id/; **pat·ting**)
 (他 文型 Ⅲ a (Ⅱ+Ⅲ) (手の平や平たい物などで) …を軽くたたく, なでる Ⅱ He *patted* me on the back. = He *patted* my back. (注意を引いたり, 慰めるために) 彼は私の背を軽くたたいた

② 異なる語や用法を用いたほぼ同等の意味の文を例示するときは, 例文・訳文の直後に (= …) として示した。

pin /pin/ 図 (～s /～z/)

⑥ (～s) (口語) 足 (legs) Ⅱ He is quick on his *pins*. 彼は足が速い (= He is quick of foot.)

③ 例文中のある表現が別の表現で言い換えられるときは, 言い換え開始位置を単語の左肩の「印」で示し, 言い換え表現を [or] で囲んだ。

[7] 文 型

- 5 文 型 1 動詞の文型は 5 文型に分けて表示した。重要語については, 原則として各語義にすべて表示した。また同一語義でも, 文型が異なれば, a, b, c, … の下位区分を設けた。

文型 Ⅰ …S+V	} 自動詞
文型 Ⅱ …S+V+C	
文型 Ⅲ …S+V+O	} 他動詞
文型 Ⅳ …S+V+O+O	
文型 Ⅴ …S+V+O+C	

文型の代表語 2 () の記号を用いて, 目的語は ㉔, 補語は ㉔, 前置詞で導かれる語句は ㉔ として表し, それが特定のものを示す場合は次のように表

示した。

to do …to 付きの不定詞

do …to の付かない不定詞

doing …動名詞および現在分詞

done …過去分詞

that 節 …that 節で導かれる名詞節

wh- 節 …*wh-*で始まる疑問詞で導かれる名詞節 (*how*, *if* も含む)

wh- to do …*wh-*で始まる疑問詞で導かれる名詞句 (*how* も含む)

as 補 …*as* で導かれる語句が補語となる場合

- 3 文型Ⅳをとる動詞はしばしば文型Ⅲにもなる。その関係を示すにはA, Bの記号を用いて次のように示した。

give /giv/ 動…一他①…b 文型ⅣⅢ(～+Ⅲ(A)+Ⅲ(B)/～+Ⅲ(B)+to+Ⅲ(A)) A(人)にB(物)を与える, あげる, 贈る || He gave me a cassette tape. = He gave a cassette tape to me.

前置詞・副詞
などの指示

- 4 特定の語句と密接に結びついて用いられる場合には()を用いて具体的に表示する方法もとった。また、動詞型として掲げるほどではないが、その動詞と共によく用いられる前置詞・副詞などを示した場合もある。

a-muse /əmjú:z/ 動…他 文型Ⅲ ① a (～+Ⅲ)… b (be amused で)(…を)おかしがる(at, by, with, to do)

ab-bre-vi-ate /əbrí:vièit/ 動他 [語など]を(…と)省略する(to)

名詞型・形容
詞型の表示

- 5 動詞の文型に準じて名詞・形容詞にも名詞型・形容詞型を示した。その他、見出し語としばしば結び付く要素については語義の後に()で包んで、前置詞, *to do*, *that*節, *wh-*節などと表示した。

a-fraid /əfréid/ 形…《叙述的に》① 恐れて, こわがって… ②(～+of)(…を)恐れて…

a-bil-i-ty /əbíləti/ 名…① (…することが)できること, (…しうる)能力(*to do*)

[8] 熟語・成句

字 体
重要度表示
機能

- 1 熟語・成句は太字の斜体で、原則として品詞ごとに示した。
2 よく使われる熟語、重要な成句には * 印を付け訳語を太字にした。
3 熟語・成句にも品詞の略字に準じて次のように機能を示した。

〈自〉	自動詞的機能	〈他〉	他動詞的機能
〈分他〉	分離他動詞的機能	〈形〉	形容詞的機能
〈副〉	副詞的機能	〈前〉	前置詞的機能
〈接〉	接統詞的機能	〈名〉	名詞的機能

このうち〈分他〉というのは「他動詞+副詞」のことで、目的語

の位置が動詞の直後でも副詞のあとでも可能であることを示す。

- * **pull down** <分他> ① [カーテン・旗など]を引き下ろす
 ② || **pull down** the blind ブラインドを下ろす
 [古い建物など]を取り壊す || They **pulled** the old house **down**. 彼らは古い家を取り壊した

- 代 表 語 4 **one, one's** は原則として成句の「主語, 自分」を代表し, **A, A's** は「主語以外の人」を, ..., ...'s は「主語以外の物・人など」を代表している。また, 対照的な語句は **A, B** の記号を用いて表した。

be 「**in** [**out of**] **one's element** 自分の本領を発揮できる[できない]

なお 「, []」などの記号の用い方については[10]参照。

at A's expense <副> **A(人)の払いで**

bring [**or call**] ... **into existence** ...を生み出す

* **not A but B** **AではなくB**

- 句 源 5 熟語・成句の成り立ちや本来の意味などを〔語源〕として掲げた。
burn one's boats 背水の陣を敷く 〔語源〕船を焼いたため
 引き返す手段を失う

[9] 語源・派生関係

- 語 源 1 語源は主に〔語源〕欄を設けて, 見出し語の最後に掲載した。
com·rade /kám·ræd/||kóm·ræd, -reid/ 〔語源〕…
 〔語源〕スペイン語=roommate (同室人) ▷camera
- 派 生 語 2 派生関係にある語, 他品詞は次のように示した。
ex·clu·sion /iksklú:ʒən/ 〔語源〕〔<exclude 動〕
ex·clude /iksklú:d/ 〔語源〕…
 ◇exclú·sion 〔語源〕, exclú·sive 〔語源〕

[10] 記 号

本辞典に用いた記号・略字類には次のようなものがある。

「 英文で後の[]内の語句との交換を示す。ただし
 文頭の一語の交換のように交換する語が自明の
 場合は省略した(⇒[6]用例 3 ③)

[] 英文では「以降の語句との, 和文では直前の語句
 との交換を示す

[or] 英文で「以降の語句と交換しても意味が変わらな
 いことを示す

() 語義の補足的説明・同意語などの他, 省略できるこ
 とを示す

[<] 派生関係を示す

～ 見出し語相当部分の省略を示す

◇ 派生語・他品詞形などをまとめて示す

▷ 語源欄で同系語を示す

機能語 一 覧

a ² , an	-ed ¹	might ¹	some
all	either	much	than
and	every	must ¹	that
any	few	need	the
as	had ²	neither	there
be ²	have ²	no	to ²
been ²	how	not	what
both	if ¹	one ²	when
but	-ing	or	where
can ¹	it ¹	ought	which
could	little ²	shall	who
do ¹	many	should	will ¹
each	may	so	would

類 語 パ ネ ル 一 覧

ability	false	lend	skin
accept	flock ¹	look	sleep
ago	flower	map	slip ¹
always	follow	meat	slow
answer	forest	medicine	smell
arrive	gather	mend	source
bake	get off	middle	stone
beautiful	get on	move	student
believe	get up	nail	swing
boil ¹	grow	narrow	talk
borrow	habit	ox	thick
breast	happen	pay	travel
car	hear	pig	tree
cartoon	hen	price	very
chair	high	problem	visit
child	hit	prohibit	visitor
cure	horse	protect	walk
cut	idle	put	weather
die ¹	influence	referee	well-known
dish	injure	road	wide
drink	interesting	sake ¹	work
examination	job	scissors	write
explain	kill	score	
face	laugh	shake	
factory	learn	shop	

A

A¹, a¹ /ei/ ㊦ (複 **A's**, **As**; **a's**, **as** /~z/) ㊦ ① 英語アルファベットの第1字 ㊦ ② ㊦ **A** 字形のもの ㊦ ㊦ (連続するものの)第1番目のもの ㊦ ㊦ ㊦ ㊦ **イ**音、**イ**調 ㊦ **A** 「major [minor]イ長[短]調 ㊦ ㊦ ㊦ (米) (学業成績の) **A**, 優 (㊦ 通例 **D** までが合格, **E** が条件付き合格, **F** は不合格)

from A to B <副>ある場所から他の場所へ

from A to Z <副>初めから終わりまで, 全部

㊦ **a²** /弱形 ə; 強形 ei/, **an** /弱形 ən; 強形 æn/ ㊦

- ① **a** (初めて話題にする名詞の導入)
My father bought me *a* bicycle.
b (不特定の一つ(一人))
My father is *a* doctor.
- ② (oneの弱い意味) 1...
a glass of milk
- ③ (単位を示す可算名詞単数形と共に) ...につき
once *a* day
- ④ (総称的に) ... というもの
A dog is *a* faithful animal.
- ⑤ (物質名詞と共に) ... の一種
Gold is *a* metal.
- ⑥ (抽象名詞・動名詞と共に) 具体的な...
He had *a* happy marriage.
- ⑦ (固有名詞と共に) ... という名の人
A Mr. Yamada wants to see you.
- ⑧ **a** (数量形容詞と共に漠然と数量を表す慣用表現)
a few books/*a* little milk
a (最上級と共に)
He had *a* most beautiful daughter.
c (序数詞と共に) さらにもう一つ (1回...)
He tried to jump across the river *a* third time.
- ⑨ (of *a* ...) 同じ
They are all *of a* color.
- ⑩ (形容詞が付かない名詞に付けて数量・程度が大きいことを示す) かなりの, 相当の
for *a* time/for *a* while

【語法】(1) **a** [**an**] は名詞の前に付いてその名詞を修飾する。また特定の語と共に多くの慣用句を作る。不定冠詞 *the* に対して不定冠詞 (indefinite article) と呼ばれる。(⇒ *the*)

(2) つづりに関係なく、子音で始まる語の前では *a*、母音で始まる語の前では *an* を用いる。(⇒ *an*)
(例) *a* cat, *a* unit, *an* hour, *an* MP /ém pi:/

(3) 語順は原則として *a* [**an**] (+副詞) (+形容詞) + 名詞 となる。(例) *a* very interesting book

ただし次のような例外がある。

- a** 名詞に *half*, *many*, *rather*, *such*, *what* などの語が付く場合は名詞の直前に置く。
(例) *half a* mile (㊦ 米) では *a* *half* mile ともいう; *many a* man
- b** 名詞を修飾する形容詞に *as*, *how*, *so*, *too* が付くときは形容詞の後に置く。

(例) *too long a* time; *as great a* musician as ever lived

(4) **a** はふつうは /ə/ と発音するが、「一つ」の意味を強調するなど、特に強勢を置くときは /ei/ と発音する。(例) *I said a/ei/ box, not the box.* 私は「何か箱を(一つ)」と言ったのであって、「その箱を」と言ったのではない。

㊦ (可算名詞単数形と共に)

a (初めて話題にする名詞の導入。訳出しにくいことが多い) (とある) 一つ[一人, 1匹...](の) (㊦ 名詞が複数で数を明示しないときは、ふつう *some* [*any*] が付く)
My father bought me *a* bicycle. 父は自転車を買ってくれた

Long, long ago, there lived *a* boy in *a* small village. One day, 「the boy [or he] went fishing never to return to the village. 昔々、とある小さな村に一人の少年が住んでいた。ある日その少年は漁に出かけて、二度と村へ戻っては来なかった (㊦ 同じ名詞に二度目以降に言及するときは *the* + 名詞とするか、単数の人称代名詞で受ける。⇒ *the*)

There is *a* bottle of milk on the table. テーブルの上に一瓶の牛乳がある (㊦ 初めて話題にする名詞を直接文頭に置いて「...がある」の意味の *be* 動詞の主語にすることはできず、この意味で *A* bottle of milk is on the table. とは言えない、上の用例のように *There is a* ... の形で表す)

b (漠然と「...のうちの不特定の一つ(一人)」であることを表す。通例訳出しにくい)

My father is *a* doctor. 私の父は医者です

【会話】 Who's Hal? — He's *a* friend of mine. ハルってだれ — 僕の友達さ

We want *a* house of our own if we can find one. 適当のが見つければ持ち家がほしい (㊦ 二度目に言及するときにも *a* + 名詞を繰り返すか *one* で受け、*the* + 名詞や人称代名詞で受けない)

【語法】(1) **a** [**an**] の反復と省略

a and [*or*] で結ばれた二つの可算名詞が同一の物・人を指すときは最初の名詞だけに付ける。別々の物・人を指すときはそれぞれの名詞に付ける。一つの名詞に二つの形容詞が付く場合もこれに準ずる (⇒ *and*)。 (例) He was *a* poet and diplomat. 彼は詩人で外交官だった/They were *a* poet and *a* diplomat. 彼らは詩人と外交官だった/*a* black and white dog (1匹の) 白黒ぶちの犬/*a* black and *a* white dog 白い犬と黒い犬 (1匹ずつ)

b 同一の物・人を指しても、「...であり...でもある」と強調する場合は *a* [**an**] を反復することがある。

(例) He was *a* famous poet and *a* competent diplomat. 彼は高名な詩人であるとともに有能な外交官でもあった

c **a** and [*or*] **B** で結ばれた二つの可算名詞が一組、または一つのもの指すときは最初の名詞の前だけに付ける。(㊦ この場合の *and* は /ən, n/ と弱く発音される。(例) *a* cup and saucer 受け皿付きカップ 1客/*a* knife and fork ナイフとフォーク一組)

d *a* 「kind [sort, type] of」に続く可算名詞単

数形に付ける a [an] は通例省略される。

(例) A carrot is a kind of (a) vegetable. ニンジンは野菜の一種だ

(2) その他の注意

世の中に一つしか存在しないと考えられるもの(sun, moon, sky など)にはもう the を付けるが、そのものの特別な状態を表す叙述では a [an] を付けることがある。(例) A 'blue [half] moon shines down on the forest. 青い月[半月]が森を照らしている(♦ a half moon = half a moon とは言わない)

②《可算名詞単数形と共に》《one の弱い意味で必ず訳出する》1…、一つ[一人、1 匹…]の…(⇒ a [an] と one の使い分けについては one ①)

a glass of milk コップ1杯のミルク/a pair of shoes 1足の靴 / a sheet of paper 1枚の紙 / a day or two 一両日/a dozen 1ダース

We walked a mile or two. おおよそ1マイルか2マイル歩いた

Rome was not built in a day. (ことわざ) ローマは1日にして成らず

③《単位を示す可算名詞単数形と共に》…につき、…ごとに(per)

once a day 1日1回/twice a week 週に2回/60 miles an hour 時速 60 マイル

An apple a day keeps the doctor away. (ことわざ) 1日1個のリンゴで医者いらす

④《可算名詞単数形と共に》《any の弱い意味で不特定のものを代表として取り上げ、そのものの性質・傾向を総称的に述べる。通例訳出しにくい》…というもの

A dog is a faithful animal. 犬(というもの)は忠実な動物だ

【語法】(1) a [an] + 可算名詞単数形が総称を表すのは原則として主語の場合に限られる。「私はリンゴが好きです」I like apples. であり、I like an apple. と言うと、前後の文脈にもよるが「たまたまある1個のリンゴが好きだ」の意味になるのが普通

(2) 「どれにも当てはまる特性」を述べるのに用い、種全体の「存在・状態」を述べるのには用いない

(例) Pandas are becoming extinct. …①

The panda is becoming extinct. ……②

* A panda is becoming extinct. ……③

(♦ パンダという種全体について「パンダは絶滅しかかっている」という場合は ① が最も一般的な言い方。

② は格式的で論文などで好まれる。③ は不可)

⑤《物質名詞と共に》《物質の種類・製品などを表す。通例訳出しにくい》

a glass グラス、コップ; 鏡、ガラス製品/an iron アイロン/a cloth テーブルクロス

Gold is a metal. 金は金属(の一種)である
Shall I pour you a tea? お茶を注ぎましょうか

⑥《抽象名詞・動名詞と共に》《「具体的な…」を表す。通例訳出しにくい》(♦ 抽象名詞に形容詞が付いて特定の事例を表す場合は a [an] が付くことが多い)

He had a happy marriage. 彼は幸せな結婚生活を送った

I have a weakness for ice cream. 私、アイスクリームには目がなくて

When he finished speaking, there was a short silence. 彼が話し終わると短い沈黙が訪れた

I heard a loud knocking at the door. ドアをうるさく叩く音が聞こえた

⑦《固有名称と共に》

a 《話し手にとって未知の人物の提示》…という名の(⇒ one ⑤)

A Mr. Yamada wants to see you. 山田さんとかいう人が会いたがっていますよ(♦ ぶしつけな言い方

ので本人の前で用いるのは避ける)

b 《典型と見なされる有名人やお互いの間で共通の認識が成立している人物と関連して》第二の…、…さんを連想させる人、…のような人(⇒ another)

Mr. Beaver is a great statesman. He'll be a Lincoln someday. ビーバー氏は立派な政治家です。いつかリンカーンになるでしょう

c …家の人

She was a Tudor before marriage. 彼女は結婚前はチューダー姓だった

d 《著名な芸術家(画家・彫刻家・作家など)や製造会社》…の作品[製品]の一つ

a Picasso ピカソの絵1枚(♦「ピカソのような画家」の意味にもなる)

I bought a Ford. フォードの車を買った

【語法】人物・地域などの特定の様相・局面を述べるときに限定語句と共に用いることもある。主に新聞英語。(例) hope for a better England 英国がよりよくなることを期待する

⑧《形容詞と共に》

a 《数量形容詞と共に漠然と数量を表す慣用表現》

a few books 数冊の本/a little milk 少量の牛乳/a lot of people 多くの人々

b 《最上級と共に》

He had a most beautiful daughter. 彼にはとても美しい娘がいた

c 《序数詞と共に》さらにもう一つ(1 回…) (=another)

He tried to jump across the river a third time. 彼は(二度試みた後)もう一度川を飛び越えようとした

【語法】additional, extra などの形容詞のあとに「数詞+複数名詞」が来る場合は一つのまとまりを表し、a [an] を付ける。(例) It will take an extra ten days for the order. そのご注文にはあと10日かかります

⑨《of a …で》同じ(the same)

They are all of a color. それらはみな同色だ

No two men are of a mind. (ことわざ) 同じ心の人は二人いない; 十人十色

⑩《形容詞が付かない名詞に付けて数量・程度が大きいことを示す》《口語》かなりの、相当の for a time (=for a long time) 長い間/run for a distance かなりの距離を走る (=run for a long distance)/for a while しばらくの間/to a degree ほど

That's an idea. それはなかなかの(良い)考えだ

A¹ ① ampere(アンペア: 電流の強さの単位)

a- /ə-, æ-, ei-/ ① 名詞に付けて in, on, to などの意を表す || abed 寝床に(in bed)/afoot 歩いて(on foot)/ashore 岸に(to shore)

② not, without などの意を表す || amoral 道徳とは無関係の/asexual 無性の

③ 語勢を強める || arise 起こる/awake 起こす

a. ④ adjective(形容詞); acre(s)(エーカー); are (メートル法のアール); about(約)

A. ⑤ America(アメリカ); American(アメリカの)

a /æt, at/ ⑥ 商業 単価…で(at)

AA /eɪi/ ⑦ Associate of Arts(アメリカの大学の準文学士号); Automobile Association(英国自動車協会); Alcoholics Anonymous(アルコール依存症自主更生協会); Afro-Asian(アフリカ系アジア人の); Asian-African(アジア系アフリカ人の)

AAA ⑧ American Automobile Association(米自動車協会)(♦ 通称 Triple A)

Aar-on /ɛərən, +米 ærən/ ⑨ 聖書 アロン(モーセの兄でユダヤ最初の祭司長)

ab-/æb-, əb-/ (接頭) away, from, off などの意を表す(♦ m, p, v の前では a- となり, c, t の前では abs- となる) ① *abdicate* 放棄する

A. B. /æi bi:/ ① *able-bodied seaman* (熟練船員) ② (米) Bachelor of Arts (⇒ BA)

ab-a-ci /æbəsai/ ① *abacus* の複数の一つ

a-back /əbæk/ ① 後ろへ (backward)

be taken aback (…に[で]面食う [*at, by*]) ①

I was taken aback at his question. 私は彼の質問に面食らった

ab-a-cus /æbakəs/ ① ② (複 -*cus-es* /-iz/, -ci /-sai/) ① そろばん ② [建築] 柱頭板

a-b-a-lo-ne /æbəloni/ ① ② [貝] アワビ(の身)

a-ban-don /əbændən/ ① (～s /-z/; ～ed /-d/; ～ing) ② 区型 ③ ④ (…+国) …を置き去りにする, (場所など) を去る; …を(敵に)明け渡す

⑤ The crew had to abandon the sinking ship. 乗組員は沈みかけている船を離れなければならなかった ⑥ They abandoned the fort to the enemy. 彼らはとりて敵軍の手に渡した

⑦ (家族など)を見捨てる, 捨てる ⑧ He abandoned his family. 彼は妻を捨てた

⑨ (計画・考えなど)を放棄する, あきらめる (give up) ⑩ He abandoned the attempt [all hope]. 彼はその企て[あらゆる希望]を断念した

abandon oneself to (文語) [歓楽・悲嘆など]にふける, 身をゆだねる ⑪ He abandoned himself to grief. 彼は悲嘆にくれた

⑫ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

already knows her ABC. 彼女はもう読み書きができる ② (the ~) 初歩, 入門 (*of*) (♦ 「いろは」をこの意味で用いるのに似ている) ③ The ABC of physics 物理学の初歩 ④ [口語] (駅名・地名の) ABC 順鉄道[航空]時刻表 ⑤ (～s) = alphabet

ABC² ① American Broadcasting Co., Inc. (ABC 放送会社, 米国のテレビネットワークの一つ)

ab-di-cate /æbdikæt/ ① ② (王位などを)捨てる; [格式的] (権利などを)放棄する ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿

㊿